

阪出鹽務局

高松出張所之部

# 阪出鹽務局高松出張所ノ部

## 第一章 鹽田位置方法及附近ノ地勢地形

本調査ノ材料トナシタル即チ各鹽田ヲ代表スヘキ鹽田ノ所在地ハ香川郡弦打村大字郷東字新開ノ北西端ニ位シ附近ノ地勢ハ郷東川ヲ以テ宮脇村ト境シ南西ノ二面ハ山ヲ繞シ南ハ我カ國有名ノ五色ノ峯（白峯青峯黃峯赤峯）ノ山脈連亘シテ桂木山、香西芝山ニ至リテ海ニ入ル北ハ香西浦ヲ基トシ備州ノ國境ニ面ス而シテ西南ノ一面ハ山陽鐵道讚岐支線々路ニ沿ヒ一ノ堤防ニヨリ海ニ入ル其狀熊恰モ鐘ノ如シ

## 第二章 鹽業ノ沿革

本管内鹽業ノ起原ハ信スヘキ記録ナキヲ以テ之ヲ詳ニスルコト能ハサルモ普通小濱ト稱スルモノハ凡ソ三百五十年前即チ阿波地方ノ鹽田ト相前後シテ開拓セラレタリト云フ又新濱或ハ新開ト稱スルモノハ明治初年或ハ十七年ノ頃ヨリ廿二三年頃ニ開墾セラレタルモノ、如ク而シテ其間大ニ事業ノ盛衰アリシヲ以テ舊藩政時代ニ於テ幾何カノ徵稅ヲナシタルコトアルモ如何ナル方法ニヨリ徵稅セシヤハ詳ナラス且ツ之カ爲メ保護獎勵ヲ加ヘタル事蹟ヲ認メサルモ元來地勢上製鹽業ニ適スルヲ以テ今日ノ盛業ヲ見ルニ至レリ

## 第三章 製鹽方法

### 甲 鹹水採收

#### 一 鹽田ノ種類及面積

(九) 阪出鹽務局高松出張所ノ部 第一章 鹽田ノ位置方法及附近ノ地勢地形  
第二章 鹽田ノ沿革 第三章 製鹽方法

鹽田ハ入濱法ニシテ單ニ鹹水採收スル地域面ノ面積ハ四町五反五畝廿一步(本鹽田ハ反別ヨリ云ヘハ約三軒前ノ反別ヲ有スレトモ現時三軒ニ區分セスシテ釜一個ヲ以テ漸次煎熬シツヽアリ)ニシテ其中ニ合マルヽ溝渠ノ面積ハ三反二十八歩ナリ而シテ釜屋倉庫納屋敷地等ノ面積ヲ合計スレハ三反八畝十七歩トナル

## 二 堤防ノ面積高低及築造材料

抑モ堤防ノ目的タルヤ是レ適宜ノ海水ヲ鹽田面ニ誘導シ且ツ暴風怒濤ヲ防クノ設備タルヤ言フ俟タサル所ニシテ土地ノ狀態如何ニヨリ其中一間内外ノモノアリ或ハ二間以上ナルモノアリ或ハ堅牢ヲ要スル爲メ二重石垣ヲ築クコトアリ尙堤防上ニハ普通作道ヲ付スルモノトス而シテ本鹽田ニ屬スル堤防ノ面積ハ長サ二百七十間幅一間半乃至二間五分ニシテ之ニ要スル總面積ハ五百六十七坪即チ一反八畝二十七歩ニシテ干潮時及鹽田面ヲ拔クコト八尺五寸ナリ而シテ之カ築造ニ要セシ材料ハ香川郡直島及與島ニ産スル石材ヲ以テ築造セシモノナリ

## 三 鹽田内溝渠ノ面積

鹽田内全溝渠ノ面積(鹹水輸送溝ヲモ含ム)ハ二反五畝六歩六合ニシテ長サ平均百間五分ニシテ其幅六尺ノモノ四溝(鹹水輸送溝ヲモ含ム)三尺ノモノ四溝ニシテ其平均幅ハ四尺五分ナリ而シテ深サ一尺ナルアリ一尺以上ナルアリ或ハ一尺以下ナルアリテ一定ナラスト雖平均一尺内外ニシテ各溝渠間トノ距離ハ平均九間ナリ

## 四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ノ構造、面積、個數、大小、高低、配置施設

撒砂ハ沼井(臺)ト稱スル裝置ニヨリ

浸出スルモノニシテ其構造ハ最低部ヲ粘土ニテ打固メ周圍ハ高サ一尺五寸内外厚サ五寸内外ノモノヲ粘土ニテ方形ナル一種ノ槽ヲ作り低部ニ丸竹(口徑一寸ノモノ)七本乃至十本ヲ并列シ其上ニ口徑五分ノモノ横二十乃至十五本ヲ并列シ其上部ニ小麥藁製ノ菰ヲ敷キ一方ニ鹹水ノ排出路ヲ設ケ下穴甕ト稱スル一種ノ素燒甕ヲ埋メタルモノナリ

## 沼井數及配置

沼井數ハ普通七十坪ニ一台ニシテ一般地盤ノ中央ニ配置セラル而シテ沼井ニ附屬スル下穴甕ハ之ヲ空虚トナストキハ地盤

下ハ海水流通セルヲ以テ水壓ニヨリテ浮出スルノ恐レアルノミナラズ雨天ノ際雨水浸入スル恐アルヲ以テ常ニもんだれを充タシ置クモノトス

**五 撒砂(鹹砂)貯藏装置構造** 大小面積及撒砂(鹹砂)ニヨリ鹹水ヲ採取スル方法 當管内ニ於テハ一般鹹砂ヲ貯藏スル等ノ設備ナシ而シテ鹹水ヲ採取スル方法ハ塩分附着ノ鹹砂ヲ爬集シ之ヲ前項記載ノ沼井内ニ投入シ海水ヲ以テ浸出セシメ以テ鹹水ヲ採取スルモノトス

**六 鹹水輸送装置ノ構造面積及輸送方法** 當地方ニハ二様ノ方式アリ一ハ鹽田地盤内ニ土管製ノ樋管ヲ粘土ニテ接合シ鹹水ノ漏洩ヲ防ギタルモノヲ埋設シ下穴甕ノ鹹水ハ濱擔桶ニヨリテ樋管ヘ運搬セラル斯ノ如クニシテ流送セラレタル鹹水ハ木製ノ槽中ニ集流セラレ然ル後釣瓶ニヨリテ鹹水貯藏池ヘ汲上グル方法ニシテ一ハ釣瓶ニ依ルト然ラザルトニアリ即チ其方法ハ淀車ヲ以テ人力ニヨリ鹹水貯藏池ニ汲送セラル、モノナリ

**七 採鹹用器具ノ名稱、種類、員數、構造、大小、形狀、効用及ビ使用方法** 當地方ハ一般他地方ト異リ器具ノ種數非常ニ少數ニシテ一具ヲ以テ二三ノ用ニ供シツ、アルモノ、如シ今其各種ヲ示セバ左ノ如シ

名	稱	員數	構	造	形	狀	使	用	方	法
木	鍬	六	櫻木ヲ以テ製セラレ柄ハ極木ヲ以テ製シタルモノナリ	別紙圖面ノ如シ	全	撒砂ヲ撒布スル際ニ使用シ又ハ沼井中ニアル撒砂器出トシテ使用ス				
柄	振	七	杉ノ木ヲ以テ製シ其先チ櫻ノ木ヲ以テ接合セシメ柄ハ極ノ木ナリ	全	全	鹹砂ヲ爬集スルニ使用シ又ハ列木鍬ノ代用チナサシム				
擔	桶	七	普通杉ノ木ヲ以テ製シ之ニ竹ノ割リタルモノヲ以テ輪ヲ作リ圓筒形ノモノニ底ヲ入レタルモノ	全	全	下穴甕ニアル鹹水ヲ輸送溝ニ運搬及ヒ海水運搬ニ使用ス				
藻	垂	七	全	上	全	海水ヲ沼井ニ汲入ル、ニ用フ				
濱	鈎	七	松ノ角板ニテ厚サ二寸五分巾三寸長四尺(大小ハ二ヨリテ異ナル)ニシテ二十二本ノ丸竹ヲ挿入セリ	全	全	海水ヲ鹽田面ニ撒布スルニ使用ス				
濱	引	七	櫻ノ板ヲ以テ製シ繩ヲ附シタルモノ	全	全	撒砂ヲ搔キ起シ又攪拌スルニ使用ス				
引	板	二	杉ノ木ニテ製セリ	全	全	撒砂ヲ粉碎シ平均ナラシムルニ使用ス				
水	車	一	杉ノ木ニテ製セリ	全	全	雨水又ハ汚水ヲ排出セシムルニ使用ス				

八 採鹹用器具ノ新調費及保存期限

名	稱	員數	單	價	小	計	保	存	限
鎌	瓶	二	先キハ鐵製ニシテ柄ハ杉又ハ桎ナリ	〇、二〇〇	〇、四〇〇	五ケ	年		
鈞	竹	一	レシモノナリ	〇、七〇〇	〇、七〇〇	三ケ	年		
子	車	二〇	杉ノ木ニテ圓形ニ作り割竹ヲ以テ輪ヲ入	〇、三〇〇	六、〇〇〇	一七ケ	年		
淀	全	一	全	〇、四五〇	二、七〇〇	四ケ	年		
鹹水ヲ汲上グルニ使用ス 濱引ノ先ヲ作ルニ使用ス 鹹水ヲ汲揚クルニ使用ス 濱引子竹ヲ削スルニ使用ス									

名	稱	員數	單	價	小	計	保	存	限
木	柄	六	〇、八〇〇	〇、四〇〇	二、七〇〇	一ケ	年		
擔	振	七	〇、二〇〇	一、四〇〇	八、四〇〇	三ケ	年		
藻	桶	七	〇、三五〇	二、四五〇	二、四五〇	六ケ	月		
濱	鈎	七	〇、二五〇	一、七五〇	一、七五〇	六ケ	月		
濱	引	七	〇、四五〇	三、一五〇	三、一五〇	一ケ	年		
水	板	二	一、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三ケ	年		
淀	車	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五ケ	年		
子	車	一	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	七ケ	年		
鈞	竹	〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	一ケ	年		
鎌	瓶	二	〇、二〇〇	〇、四〇〇	〇、四〇〇	五ケ	年		
計									

九 鹹水貯藏裝置ノ構造、大小、形狀及面積

鹹水貯藏裝置即チ鹹水坪ノ構造及大小ハ地方ニヨリ多少異ルモノ、如シト雖

少クモ一軒前ニ對シ千石以上ノ鹹水ヲ貯藏スルニ足ルヘキノ設備ナカル可ラス故ニ普通三個乃至五個ヲ設備セルモノ多シ

而シテ此ノ鹹水坪ナルモノハ製鹽業ノ貴重ナル原料ナルカ故ニ漏脱セサル様留意シテ築造セルモノナルカ故ニ其構造ハ堤防上ニ長方形ニ深サ一間餘ノ穴ヲ掘リ其底部ニ小砂利ヲ敷キ其上ニ粘土ヲ厚ク敷キ之ヲ十分踏固メタル後更ニねばト稱シ海底ニ腐敗セル泥土ノ最モ粘着力ニ富メルモノヲ採收シ暫時堤防上ニ乾燥シ稍水分減少シタル時煉瓦石形ニ造リ固メ之ヲ其粘土ノ上ニ敷キ其上ヲ鐵槌若クハ木槌ヲ以テ叩キ其上ヲ幾回トナク磨リ込ミ數日後其面ニ龜裂ヲ生ズルヲ見テ再ビ此手續操作ヲ數回行ヒテ后完成スルモノニシテ其周圍亦以上ノ手續ヲ經テ全部完成シ其上ニ松若クハ杉ノ丸木數本ヲ渡シ梁ヲ作り茅又ハ藁ヲ以テ低ク三角形ニ屋根ヲ葺キ下ロシ其下端ハ地上ニ接ス而シテ屋根ノ中央或ハ兩端ノ一方若クハ二方ニ方二尺餘ヲ切り開キ出入口ヲ設ケ内部ニハ楕子ヲ用ヒ出入ニ便ナラシメ尙採鹹用器具ヲ保存スルノ設備ヲナセリ而シテ坪ニ要スル面積ニ至ツテハ一定シタルモノナシ然リト雖稍平均シタルモノニツキ調査シタルニ鹹水坪一個ニ對スル面積ハ五十二坪六合ナリトス

### 十三 鹽田地盤ノ構造及性質

鹽田地盤ハ開墾ノ時代ニヨリテ其計畫ヲ異ニシ且ツ埋立海面潮流ノ關係及附近ノ河川汚水等

ノ影響如何ニヨリ其區劃一樣ナラサルモ本調査ノ材料トシタル鹽田反別ヲ見ルニ總反別四町五反五畝二十一歩ニシテ之ヲ八區ニ分割シ其一區ヲ凡ソ五反八畝内外トシ幅九間長サ百間五分トシ之ニ鹹水浸出槽一沼井ト稱スルモノヲ中央ニ設ク而シテ其概況ヲ述ヘンニ海面ニ漸次堤防ヲ築造シ内部ノ埋立工事ヲ行ヒ以テ之ヲ天盤地盤トシテ其上ニ普通地場ト稱スルニ層面ヨリナル埴土ヲ以テ人工地盤ヲ作り上部ニ撒砂(さられ)ヲ撒布シ以テ鹽田トナシタルモノニシテ鹽田面ハ普通干潮時ト平均點ニ位スルヲ度トスルモノ、如シ又其性質各層ノ厚薄及混合割合等候ニ之ヲ知ルヲ得サルモ之カ調査セシ所ニ依レハ下層面即チ天然地盤ハ概テ(から)ト稱スル種々ノ貝殻片混同シ砂層モ又粗ニシテ粘着力頗ル疎ナリト雖吸収力ニ富ムヲ以テ海水ノ流通スルニ便ナリ而シテ貝殻ノ混同セルハ案スルニ素海面ノ河流ニヨリ土砂ノ堆積シテ淺洲トナリシヲ鹽田ニ開拓シタルニ因ルモノナラハ中層ハ稍黒褐色ノ粘着力ヲ有スル砂土ニシテ其厚サ約六寸乃至八寸ナリ此上層ハ普通撒砂ト稍同一ニシテ茶色若ハ鼠色ヲ帶フル細砂土ニシテ粘着力ニ乏シト雖最下層ノ海水ヲ吸収スルコト即チ毛細管現象ニ至ツテハ

敢テ憂フルニ足ラサルモノ、如シ又當業者ノ言ニ依レハ毛細管現象ニ至ツテハ反テ好適ナリト云フ而シテ此地層上ニハ撒砂ヲ撒布スルコト約五分乃至七分ニシテ最下層ヨリ漸次海水ヲ吸收セシメ以テ採鹹作業ヲ行フモノニシテ吸收力如何ニヨリ普通三ヶ年ニ一回修繕ヲ行ヒ吸收力ヲ増サシムルニ勉ムト云フ

十一 撒砂又ハ鹹砂ノ種類性質 撒砂ハ概テ細砂土ニシテ鼠黑色ヲ帶ヒ多少貝殻及粘土ヲ混シタルモノニシテ此地故有ノモノナリ木田郡瀧元村ノ沖合ノ海底ヨリ採收シ之ヲ移入ス又香川郡下笠居村川窪及神在村ノ沖合ヨリ採收移入スルモノアリト雖此地ノモノハ濾過時間ノ遅延スルト鹹水ノ不良ナルトニヨリ殆ント瀧元ヨリ移入スト云フ

十二 撒砂撒布量及替砂數 撒砂撒布量ハ各濱及同一場所ト雖一定スルコトナキヲ以テ確タル調査ヲナシ難キモ數ヶ所ニ調査セシ平均ヲ取ルニ一坪ニ對スル撒布量ハ約一斗二升内外此重量ハ四貫三百目ニシテ季節ニヨリ多寡ノ差アルニアラス而シテ毎年替砂トシテ四五月頃七八荷(一荷ノ重量八貫目)ノ撒砂ヲ撒布スト云フ

十三 撒砂乾燥時間 撒砂乾燥ニ要スル時間ハ地盤ノ性質如何ニヨリ多小差アルモノニシテ一定シ難シト雖二三ノ濱ニ就キ調査スルニ大約左ノ如シ

四	月	乃	至	六	月	三	時	間
七	月	乃	至	九	月	二	時	間
十	月	乃	至	十二	月	四	時	間
一	月	乃	至	三	月	三	時	間

右時間ニヨリ考察スルニ大約二乃至三時間内外ヲ以テ乾燥スルモノトス

十四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ台等)ニ注入スル海水量(鹹水採收用もんだれ採収用トニ依リ各別ノ容量)及鹹水又ハもんだれ採収量

鹹水採收ノ為ニ注入スル海水量	もんだれ採收ノ為ニ注入スル海水量	もんだれ採収量	鹹水採収量
----------------	------------------	---------	-------

冬	秋	夏	春
六〇〇 六〇〇	一、二〇〇 一、二〇〇	一、八〇〇 一、二〇〇	一、二〇〇 一、二〇〇
一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇 一、〇〇〇
九〇〇 九〇〇	九〇〇 九〇〇	九〇〇 九〇〇	九〇〇 九〇〇
一、〇七〇 一、〇七〇	一、五〇〇 一、五〇〇	一、九三〇 一、九三〇	一、五〇〇 一、五〇〇

二六七

十五 海水、鹹水、もんだれノ性質 海水中ニ含有スル重ナル鹽類ハ鹽化苦土硫酸苦土硫酸石灰、鹽化加里等ニシテ其比重ハ母氏三度乃至二度半ヲ示シ百立方「センチメートル」中ニ、七八四瓦ノ鹽類ヲ含有シ其中鹽化曹達ノ量ハ二、〇一八瓦ナリトス

海水分析表

鹽化曹達		鹽化加里		鹽化苦土		硫酸石灰		硫酸苦土		温		度		母氏比重		比		重	
二、〇一八	〇、二三〇	〇、一八〇	〇、一三五	〇、二一五	一六、五	三、〇	一、〇二二	一七、〇	一五、〇	一、二〇〇	一三、七二	〇、七〇八	一、二四九	〇、四二四	〇、九〇二	一七、〇	一五、〇	一、二〇〇	一、二〇〇

鹹水分析表

もんだれハ前記鹹水ヲ採取シタル後ニ於テ海水ヲ以テ浸出シ之ヲ下穴鑿中ニ貯置キ次回ノ鹹砂浸出ニ用フルモノニシテ其比重ハ普通母氏五乃至八九度ナリトス

十六 海水引入排出(水閘)海水汲揚装置及汲揚方法 海水引入及排出ノ方法ハ堤防中ニ一ノ暗溝ヲ穿テ之ニ水閘ヲ設ケ其引入及排出ニ便ナラシム水閘ハ一ノ槓杆作用ニナル昇降樋ニシテ松又ハ檜或ハ杉板ヲ以テ作リタルモノナリ海水汲上ノ装置等ナシ



十七 海水貯溜池ノ有無大小深淺及面積 海水ノ貯溜池ハ鹽田ノ一隅ニアリ深サ約三尺ニシテ其面積六畝貳拾步ナリ

十八 鹽田一戸前又ハ一定段別ノ一ケ年平均鹹水採収量及月別鹹水採収歩合 一ケ年ニ於ケル一軒前ノ平均鹹水採収量及

平均比重左ノ如シ

比重母氏

六五七、三

一五、〇

季節ニ依リ月別平均鹹水採収量及其比重左ノ如シ

月	採	收	比	重
自五月至八月ノ間一ケ月平均	九一、五八〇	一五、五		
自一月至四月ノ間一ケ月平均	三六、三八〇	一三、五		

十九 鹽田一戸前又ハ一定段別ニ就キ採鹹ニ要スル人夫ノ種類名稱員數及賃銀

人夫ノ種類、名稱、員數

種類	名稱	員數	賃銀
棟	梁	一人	一六〇〇
濱子	男	三人	二七六、五〇〇
濱子	女	三人	一六〇〇
沼井溝梁等修繕人夫		一人	一〇〇

全 女

一六五、九〇〇

沼井構渠等修繕人夫

三九、五〇〇

計

五九七、九〇〇

二六九

二十 鹹水採取時季及採鹹量ト風位トノ關係

時季ニヨリテ採鹹量ノ多少ニ大ナル關係ヲ有スルモノニシテ六乃至九月ノ

間ヲ以テ最好時季トシ十月乃至二月ノ間ハ降雪及ビ降霜ノ爲メ田面水結セルヲ以テ採鹹量少ク三月乃至五月ノ間稍良ナリ

而シテ東南風ハ採鹹操業ニ最モ忌ムヘキ風ニシテ之ニ反シテ西又ハ北ノ風ハ乾燥時間ノ短縮スルノミナラズ善良ナル鹹水

ヲ採取シ得ルモノ、如シ

二十一 一ケ年間ノ採鹹平均日數

採鹹日數 八十日 準備濱日數 二百十六日

二十二 一ケ年間ノ平均鹹水採收量

反 別	年 別	上 田	中 田	下 田
一町五反歩	一ケ年	五九、五四〇	四四、七三〇	四九、六九〇

二十三 準備濱及持濱其他採鹹ニ關スル操作ノ順序及方法

當管内ニ於ケル操作ノ大要ヲ記載スレハ左ノ如シ

第一 濱 引

濱引トハ毎年事業ノ開始又ハ雨後田面ニ固着スル撒砂ヲ搔起シ採鹹作業ノ準備ヲナスヲ云フ而シテ濱引方法ハ持濱休止中降雨ノ爲メ沼井ノ四隅ニ流レ廣マリタル撒砂ヲ其當日午前六時乃至八時頃ニ木鍬ヲ以テ沼井ノ両面ニ搔キ寄セ（此操作ハ一ハ持濱當日ノ使用ニ便ナラシメ一ハ地盤ノ狹マリタルヲ廣クスル爲メノ操作ニシテ翌日ヨリ此ノ操作ヲナサス）夫ヨリ濱引ヲ以テ田面ニ固着セル撒砂ヲ搔キ起シ横縦斜等數回攪拌シ撒砂ヲ天日其他風力ニヨリテ乾燥ナラシム此操作ヲ稱シテ雨後ニ於ケル操作即チ濱引ト云フ而シテ此操作終レハ引板ヲ以テ（各季ニ行ハス）撒砂ノ鎮壓ヲ行ヒ田面ニ密着セシメ海水

(九) 阪出鹽務局高松出張所ノ部 第三章 製鹽方法

ヲはまかゝ杓ヲ以テ撒布シ午後二時前記ノ操作ヲ行ヒ午後五時頃亦再度ノ操作ヲナシ當日ノ終業トナシ夜間ニ於テ溝梁ヨリ田面ニ浸潤セシ海水中ニ含有スル鹽分ノ吸收ヲ促シ以テ採鹹操作ノ準備トス

### 第二 持濱

持濱トハ採鹹ノ爲前日準備セラレタル田面ノ撒砂カ夜間溝梁ノ海水ヲ吸收浸潤セラレタル當日午前六時頃ヨリ數回濱引ヲ以テ搔廻攪拌シ天日或ハ風力ニヨリ自然水分ノ蒸發シテ鹽水分ノ附着ヲ待チ寄セ柄振ヲ以テ爬集シ之ヲ沼井中ニ收容シ海水ヲ以テ浸出漉過シ濃厚ナル鹹水ヲ得ルト同時ニ次回持濱準備トシテ當日採鹹ノ爲メ撒砂ヲ爬集シタル跡即チ田面ニ撒布シ又鹹水ヲ採收シタル後沼井中へ再ヒ海水ヲ注入シ二番鹹水(もんだれヲ云フ)ヲ下穴甕中ニ漏出放置セシメ次回持濱ノ際濃厚ノモノヲ得ル爲ニ使用スルモノナリ而シテ當地方ハ一般皆持ト稱シ(天候ノ如何ニヨルト雖普通三日)全部採鹹スルモノニシテ日持替持三日持等ノ操作ナシ

### 第三 操作ノ順序

持濱ヲナスヘキ當日ハ午前六時頃(季節ニヨリ多少差アルモノ、如シ)濱子ノ幾分ハ第一着トシテ夜來海水ヲ吸收シ充分浸潤セル撒砂ヲ濱引ヲ以テ搔廻シ撒砂ヲ浮上セシメ又其他ノ濱子ハ同時ニ木鍬ヲ以テ(一名沼井堀鍬ト云フ)前同沼井ノ内ニ收容浸出漉過セラレ鹽分ヲ洗取セラレタル殘砂ヲ沼井ノ中ヨリ堀出シ沼井ノ兩面ニ積置キ沼井ノ内部ヲ乾燥ナラシメ午後ニ於テナスヘキ撒砂漉過ノ準備ヲナス次ニ沼井ノ兩面ニ積置キタル撒砂ノ切返ヲナシ當日撒砂集收ノ跡へ撒布スヘキ準備ヲナシ一同小憩晝飯ヲ終へ再ヒ濱引ヲ以テ縱横又ハ斜ニ引キ撒砂ヲ搔キ廻シ攪拌シ海水ヲ撒布シテ一同休憩撒砂ニ含まレタル水分カ天日或ハ風力ノ爲メニ蒸發シ鹽分ノミ附着結晶スルヲ待チ午後一時乃至三時頃ノ間ニ至リ撒砂カ充分乾燥シ鹽分ノ結晶ヲ認ムレハ持濱旗ヲ揚ケ撒砂收容ノ時間ノ來ル合圖ヲナシ一齋ニ之カ收容ニ着手ス而シテ其方法ハ(子供又ハ女ヲモ使役シ二三時間ニシテ業ヲ終ルモノトス)

寄セ柄振ヲ以テ沼井ノ一方ニ引寄せ來リ之レヲ沼井中ニ收容シ其沼井ノ收容ヲ終レハ次ノ濱子ハ木鍬トもんだれ杓トヲ持

チ來リ其跡ヨリ沼井一臺毎ニ收容セラレタル撒砂ヲ踏ミ均ラシ踏詰メテ平均ナラシメ前日ヨリ下穴甕中ニ貯ヘ置キタルニ  
番鹹水即チもんだれヲ藻滴杓ニテ沼井中ニ汲ミ注キ行ケハ次ノ濱子ハ擔桶ニテ溝渠ヨリ海水ヲ汲ミ來リ其上ニ注加スレハ  
先ニ注カレタルもんだれト海水トハ撒砂中ニ含有スル鹽分ヲ洗流シ沼井底部ニ裝置セラレタル菰ニヨリ漉過セラレ濃厚ナ  
ル鹹水トナリテ沼井一面ニ設置セラレタル下穴甕中ニ流下ス是レ即チ鹹水ナリ此ノ間ニ於テ他ノ濱子等ハ撒砂ノ收容セラ  
ル、ニ從ヒ其跡ヲ追ヒ沼井ノ裾ニ午前中搔キ廣ケ置キタル撒砂ヲ木鍬(當管内ハ一切列子木鍬ヲ使用セス)ヲ以テ鹽田全面  
ニ撒布シ夫レヨリ二手ニ分レ一方ハ沼井ノ下穴ニ鹹水ノ流加シ來ルヲ待チ之ヲ擔桶ニ汲取り鹹水輸送溝ニ運ヒ鹹水壺ニ輸  
送スルモノナリ夫ト同時ニ一方ハ跡仕事ト稱ヘ鹽田面ニ撒布セラレタル撒砂ヲ濱引ヲ以テ搔廻シ平均ナラシメ鹽田面全部  
ニ海水ヲ撒布シ又鹹水ノ汲取ヲ終レハ最後ニ擔桶ニテ溝渠ノ海水ヲ汲ミ來リ之ヲ一荷宛沼井ノ内ニ注加シ置ク即チニ番鹹  
水ニテ翌日使用ノもんだれトナルナリ

## 二十四 鹹水採收ニ關スル其他ノ事項 該當記事ナシ

### 乙 鹹水煎熬

一 釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積 釜屋トハ鹽田ニ於テ採収シタル鹹水ヲ煎熬スル場所ヲ指スモノニシテ其構造ハ普通  
廿五坪乃至三十坪内外ノ木造茅又ハ小麦藁葺ノ平家造ニシテ柱ノ類ハ總テ松材ノ丸木ノ儘ヲ用ヒ周圍ハ粗塗リト稱シ極メ  
テ粗ナル壁ヲ塗り屋根ノ兩端ニハ三角形ノ口ヲ開キ蓋様ノモノ(はふト云フ)ヲ掩ヒ内部ヨリはふ紐又ハはふ棒ト云フモノ  
ヲ付ケ其開閉ニ自由ナラシメ煎熬ノ際鹹水ヨリ生ズル水蒸氣ヲ發散セシムル所トシ又釜屋ノ前面及ヒ中央又ハ側部ニ各一  
個ノ出入口ヲ開キ板戸ヲ設ケ其開閉ヲ自由ナラシメ且ツ釜屋ノ内部中央ニハ煎熬竈ヲ築キ其上ニ釜ヲ設置シ其后面ニハ竈  
ノ内部ヨリ屋根外ニ通ズル烟道ヲ設ケ(烟道ハ地盤ニ溝ヲ穿チ粘土ヲ以テ包マレタルモノ)外部ノ烟突(ばむばら)ニ烟ヲ導  
キ之ヲ空中ニ飛散セシムルモノトス而シテ其烟道ノ上ニ温メ釜ト稱スル(鐵板ヲ以テ製シタル長方形ノ槽ナリ)モノ一個ヲ

据付ケ又其先キニ端釜(はな釜)ト稱スル(温メ釜ト同一ノモノ)小形ノ鐵釜ヲ据付ケ其右側ニ圓堀ト稱スル桶ヲ埋メ鹹水貯藏池ヨリ煎熬用ノ鹹水ヲ輸送セシメ置キ煎熬ニ先シ鹹水中所含ノ不純物ヲ沈澱セシメ清澄ナラシムルノ裝置トス又竈ノ兩側壁ニ長サ三間幅一間ノモノト長サ二間幅一間深サ八寸乃至一尺ノ勾配ヲ有スル鹽床ヲ設置シ釜ヨリ取上ゲタル鹽ヲ一定時間此所ニ放置スベキ鹽置場トシ又ハ釜屋ノ入口ノ右若クハ左ノ一隅ハ石炭置場ニ充テ其他ノ雜用器具ハ使用上便宜ノ場所ヲ撰ミ釜屋内ニ裝置スルモノトス

二 釜及竈ノ種類構造大小製造原料及釜ノ深淺 結晶釜ハ石釜ト鐵釜トノ二種類アリト雖當管内殆ンド石釜ノミヲ使用シ

鐵釜ハ稀ニ使用スルルヲ以テ石釜ノ築造ニ付キ述ベントス

石釜ハ縱八尺横一丈一尺三寸ヲ以テ古來普通ナリトスルモ多少濱ニヨリ廣狹一樣ナラザルモノ、如ク現ニ當管内香川郡下笠居村生島濱ノ如キモノハ七尺一丈ノモノ専用セラレツ、アリ故ニ釜ノ寸方ニ至ツテハ明言シ難シト雖其釜ノ總立方法ニ至ツテハ毫モ差異アルニアラス而シテ釜焚夫ノ頭(釜焚頭領)ノ手ニヨリテ築造セラル其方法大畧左ノ如シ

第一着トシテ釜ヲ設置スベキ竈ヲ築キ其上ニ長サ七尺三寸内外ノモノ幅八寸乃至一尺厚サ一寸餘ノ板(之レ釜板ト云フ別紙圖面ノ如シ)數枚ヲ並列シ(此ノ物ノ并列寸法ハ釜ノ寸法ニ準ス)此板ノ四方ニハ線釜ト稱スル角長ノ細キ鐵棒長短四本ヲ并べ兩端鈎狀ヲナセル隅金ト稱スルモノヲ其四隅ニ置キ線釜ヲ拘束シ以テ之ヲ釜ノ基礎トシ其中厚サ約一寸直徑六寸ノ方形ノ花崗石ノ割石ヲ并列シ尙其ノ接合部ニ縱ニ五本横ニ九本(計四十五本)上下共ニS狀ヲナセル長サ一尺ノ鈎金ヲ挟ミ込ミ松葉灰ニ粘土ヲ混シタルモノヲ濃厚ナル粗惡鹽ノ水液ヲ以テ漆喰ノ如クシ之ヲ石ト石トノ接合部及鈎釜ト線釜トノ空隙ニ填充シ釜全面ヲ塗繫キ更ニ此ノ漆喰ヲ以テ線釜ヲ中心トシテ内外ヨリ塗リ上ゲ釜ノ縁ヲ造ル(現時松若クハ杉板ヲ以テ釜縁トナシツ、アルモノアリ)右築造終レバ其釜ノ上ニ二尺許ノ高サニ一面ニ薪ヲ積ミ之ニ火ヲ點シ(之ヲ釜焚ト云フ)漸ク火勢盛ナラントスルトキ濕レ蕙ヲ其上ニ掩ヒ火ノ上ニ向フヲ防止シ専ラ釜面ニ火力ヲ強カラシム而シテ燃火ハ三時間許ニテ燃ヘ終レハ殘火ハ翌朝迄放置シ翌日之ヲ掃除スレバ陶磁器ニアラザル一種奇休ノ釜トナルナリ全ク釜ノ築造終レハ四隅ニ三尺乃至四尺ノ丸木若クハ割木ヲ立テ其上ニ大渡リト稱スル丸木ヲ横ヘ其上ニ小渡リト稱スルヲ横ヘ此ノ小渡ヨリ

電信線ノ稍細キ針金ヲ以テ釣金ニ結付ケ釜ヲ釣り下シ釜ノ墜落ヲ防グト共ニ竹片若クハ木片ヲ以テ針金ノ弛ミヲ矯メ使用中釜ノ平準ヲ保タシムルナリ夫レヨリ釜築造ノ初メニ設置シタル釜板ヲ抜き取り又之ヲ拔取リタル爲メ竈ト釜ノ間ニ生ズル空隙ニハ粘土ニ石灰ヲ混シタルモノヲ以テ塗付ケ釜ト竈トヲ密着セシメ以テ石釜ノ裝置ヲ終ルモノトス温メ釜ハ鐵板ヲ繋ギ合セタルモノニシテ箱狀ノモノナリ竈ハ一般赤穂式ノモノ多ク今其築造方法ノ概畧ヲ述ベンニ深サ三尺四寸内外ノ方形ナル穴ヲ掘リ其中心ニハ堅ニ溝ヲ設ケ稍高ク築造シ之ヲ焙烙(さな)トシ其兩側ニハ三個ノ穴ヲ穿チ其上前面ニ石ヲ積ミ其間ハ粘土ヲ以テ塹狀ニ塗り上下ニ口ヲ設ケ上口ハ然料ヲ投入スル所トシ下口ハ内部さなノ穴ヨリ通シ來リタル燃燒シタル炭骸ヲ掻キ出ス所トシ又後面ニハ一口ヲ開キ烟路へ通セシメ竈内ノ炭烟ヲ外部ノ烟突(ばむぼら)へ吐カシムルト同時ニ烟道上ニ設置セラレタル温メ釜及ヒ端釜ニ竈内ノ餘炎ヲ與へ鹹水ヲ濃厚ナラシウルト共ニ端釜内ノ鹹水ノ結晶ヲ促シ(尤モ端釜ハ一晝夜ニ二釜ヲ煎熬スルニ過キザルナリ)左右兩側ニモ亦二個宛小口(手子口ト云フ)ヲ設ケ燃燒シツ、アル燃料ヲ攪拌シ炭骸ヲさな穴ヨリ突落スノ裝置トシ猶竈ノ一方或ハ二方ノ隅ニ小口ヲ設ケ其餘炎ヲ利用シ飲食物ヲ煮沸スルノ用ニ供シ釜焚夫ハ一切薪炭ヲ使用セサルモノトス而シテ既ニ築造終レハ一定日放置シ其上ニ釜ヲ設置シ釜ト竈トノ空隙ヲ塗り付ケ之ヲ密着セシム

### 三 石釜及竈築造方法及築造使用ニ至ル迄ノ操作 前項記載ノ如シ

### 四 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル裝置構造及方法 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル方法ハ暗渠ニ依ルモノニシテ暗渠ハ口徑三寸ノ竹筒若

クハ土管ニシテ鹹水壺ヨリ釜屋内ノ田堀ニ至ル而シテ鹹水壺内ニハ尺八ト稱スル一種ノ液量計様ノモノヲ裝置シ穴ヲ穿チ之ニ木栓ヲ用ヒ栓ヲ抜ケハ田堀ニ充滿スヘキ鹹水ヲ輸送スル方法ニシテ其構造ハ徑三寸ノ竹筒ニ木栓ヲ穿チタルモノリナ

### 五 煎熬用器具ノ名稱、種類、員數、形狀、大小、構造及使用方法

全圖面ヲ記載セントスレトモ復雜ナルヲ以テ二三ノモノ

ニ付テノミ記ス

名	稱	員數	構	造	使	用	之	方	法
温	め	三	杉ノ割木ヲ以テ作り之ニ竹輪ヲ入レタルモノニシテ柄ハ竹ナリ	温メ釜中ノ鹹水ヲ煎蒸釜中ニ注入スルノ用ニ供スルモノナリ圖面参照					
け	ん	一	全上ニシテ口径三寸ノ竹筒ヲ附スルモノナリ	田堀内ノ鹹水ヲ温メ釜中へ注入スルノ用ニ供スルモノナリ					
田	堀	一	全上ノ構造ニシテ竹輪ヲ入レタルモノナリ	鹹水壺ヨリ輸送セラレタル煎蒸用鹹水ヲ貯置クノ装置ナリ					
芻	釣	一	杉丸木若クハ松ノ丸木ニシテY狀ニ作りタルモノナリ	田堀内ノ鹹水ヲけんげら内へ移入スルノ用ニ供スル釣瓶ノ臺木ナリ					
釣	瓶	一	杉ノ割木ヲ以テ作り竹輪ヲ入レタルモノナリ	前記ノ臺ニ接續セシメ鹹水ヲ注入スルノ用ニ供セルモノナリ					
鹽	取	三	對竹ヲ以テ編ミタルモノナリ	煎蒸釜内ノ結晶鹽ヲ此籠ニ採リ苦汁ヲ滴下セシムルノ用ニ供スルモノナリ圖面参照					
採	柄	一	櫻ノ木ヲ以テ作り柄ハ竹若クハ樫ナリ	結晶鹽ヲ釜内ニ採收スルニ用フルノ器ナリ					
押	板	二	全	結晶鹽ヲ釜ノ一方ニ押寄スルニ用フ					
て	こ	二	鐵ニテ作り先端ハV字形ニテ柄ハ丸ク柄ノ先端ハ樫ノ木ナリ	竈内ニ燃燒シツ、アル燃料ノ骸ヲ押出スニ供スルモノナリ圖面参照					
十	能	一	鐵板ヲ以テ作り柄ハ樫ノ木ナリ	竈内へ燃料ヲ投入スルノ用器ナリ					
割	能	一	鐵ヲ以テ作り先端ノ柄ハ樫ナリ	燃料ノ燃燒シツ、アル平均スルノ用ニ供スルモノナリ圖面参照					
灰	搔	一	全	竈内ノ灰ヲ搔出スニ使用ス					
齒	鋏	一	櫻ノ木ヲ以テ作り先端ハ鐵ヲ以テ鈍齒ヲ附シ柄ハ樫ノ木ナリ	結晶鹽ヲ搔出スニ使用シ又ハ鹽床ニ堆積鹽ヲ搔キ崩スニ用フ					
あ	め	一	粘士ヲ以テ焙焼トナシタルモノナリ	あらめヲ煮ルニ用フ					
あ	め	二	松ノ木製ニシテ柄モ同様普通ノ杓ナリ	あらめ汁ヲ釜中ニ注入スルニ用フ					
大	鍋	一	杉ノ割木ヲ以テ製シ竹輪ヲ入レタルモノナリ	釜焚夫ノ手足ヲ洗ヒ又ハ衣服ヲ洗濯スルニ用フ					
土	鍋	四	粘士ヲ以テ焙焼トシタルモノナリ	釜焚夫ノ食料品ヲ煮ルニ用フルノ器ナリ					
擔	棒	二	粘士ヲ以テ作りタルモノナリ	擔桶ノ附屬品ナリ					
斗	桶	一	杉ノ割木ヲ以テ作り竹輪ヲ入レタルモノナリ	鹽ヲ坪量スルノ用ニ供スル器ナリ					
水	甕	一	粘士製	飲料水ヲ貯ヘ置クナリ					
ら	ぶ	一	鐵力ヲ以テ作りタルモノナリ	點火シ釜屋内ヲ照輝スルニ用フル器ナリ					
石	油	一	黃ヲ以テ編ミシモノナリ	鹽ノ秤量ノ際又ハ人夫ノ之ニ座スルノ用ニ供スルモノナリ					
	若	一		點火用					

六

釜其他煎熬用器具ノ新調費修繕費及ヒ保存年限

ふ	建	擔	あ	松
ご	石	桶	ら	割
			め	木
			ク	ク
二	四	二		
藁ヲ以テ作りタルモノナリ 杉ノ割木ヲ以テ作り竹輪ヲ入レタルモノナリ				
釜立ニ使用スルモノナリ 煎熬中ニ釜ノ「ネバル」ヲ防クタメニ使用スルモノナリ 飲料水ヲ運搬スルニ用フルモノナリ 釜築造ノ際使用スル男柱トナルモノナリ 石炭骸ヲ運搬スルノ用ニ供スルモノナリ				

名	稱	員數	單	價	價	格	修繕費	保存年限
温	め	三		〇、三〇〇	〇、九〇〇	一回	〇、〇三〇	二ケ月
けん	け	一		〇、七〇〇	〇、七〇〇	五回一回	〇、〇七〇	三ケ年
田	堀	一		一、二、〇〇〇	一、二、〇〇〇			二十ケ年
勿	釣	一		二、〇〇〇	二、〇〇〇			十ケ年
釣	瓶	一		〇、七〇〇	〇、七〇〇	九回一回	〇、〇五〇	三ケ年
鹽	取	三		〇、一〇〇	〇、三三〇			二ケ月
採	柄	一		〇、三五〇	〇、三五〇			五ケ月
押	板	二		〇、二五〇	〇、五〇〇			五ケ月
て	乙	二		一、九〇〇	三、八〇〇			四ケ年
十	能	一		〇、六〇〇	〇、六〇〇			五ケ年
割	能	一		一、五〇〇	一、五〇〇			四ケ年
灰	搔	一		一、五〇〇	一、五〇〇			二ケ年
齒	鋏	一		〇、五〇〇	〇、五〇〇			二ケ月
あ	鍋	一		〇、〇三五	〇、〇三五			二ケ月
あ	杓	二		〇、〇三〇	〇、〇六〇			二ケ月
大	鹽	一		二、五〇〇	二、五〇〇			四ケ年

(九) 阪出鹽務局高松出張所ノ部 第三章 製鹽方法



土鍋	擔棒	水	ら	蕙	石	松	あ	擔	建	石	温	端	ふ
桶	桶	桶	割	木	石	桶	桶	桶	桶	桶	桶	桶	桶
四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
〇、〇七〇	〇、〇三五	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、一五〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇
〇、二八〇	〇、〇七〇	〇、五〇〇	〇、三〇〇	〇、三〇〇	一、五〇〇	〇、三〇〇	〇、三〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇	一、三〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇	〇、二二〇
		六回一回											
		〇、一〇〇											
五	一	二	二	一	二	二	二	二	二	一	一	二	二
ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

七

燃料ノ種類名稱產地價額及品質

種	類	名	稱	産	地	價	格	品	質	發	熱	量
塊	炭	元	山	炭	筑	後	百斤當	粘着セヌ		未	タ	試
粉	炭	三	池	長	門		〇、四三二	粘着膨脹ス		試	驗	セ
										驗	セ	ス

八

一釜ニ使用スル鹹水容量及製造鹽等級別數量一釜煎熬ニ使用スル燃料ノ數量 各等級別ニ付試驗シタル事ナシト雖本  
 調査ノ材料ニ供シタル釜ニ付試驗シタル成績左ノ如シ

一釜ニ使用スル鹹水量	母氏比重	温度	一釜ヨリ得タル製鹽容量	全重量	一釜ニ使用スル燃料消費料	摘	要
五、〇〇	一六、五	一四、〇	一九五	二二九、五〇	三三五、〇〇	本鹽ハ煎熬即次試験シタルモノ	

但シ當業者ニ付調査質問スルニ等級別ニヨリ多寡ノ差ナシト云フ

九 煎熬ニ使用スル各種石炭混合割合 當管内ハ一般元山及三池炭ヲ使用スルモノニシテ平戸炭ハ稀有ニシテ一晝夜ニ於ケル割合ハ元山炭三千斤三池六百斤ノ割合ナリ

十 鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先チ汚物ヲ除去スル爲メ之ヲ濾過スル装置ノ有無構造及方法 鹹水ヲ濾過セル方法ハ半切桶ヲ用ヒ底部ニ苳ヲ敷キ其上ニ海砂ノ稍粗ナルモノヲ桶ノ七分目(桶ノ口徑四五寸深サ五尺五寸)ノ所迄入レ置キ側面ノ下部ニ

一口ヲ穿チ鹹水ノ排出口トシ木栓ヲ行ヒ温メ釜ノ左側ニ設置シ其排出口ヲ温メ釜ノ中ニ入レ置クノ装置ニシテ先ツ此桶ノ中ニ鹹水ヲ汲入レ下部ノ栓ヲ抜キ放テハ自然ニ汚物ノ除去セラレ鹹水濾過セラル、モノニシテ全部温メ釜中ニ濾出セラルレハ直チニ栓ヲナシ次回ノ使用ニ供センカ爲メ鹹水ヲ汲入レ置キ使用ノ際栓ヲ抜キ濾出セシムルノ方法ナリ

十一 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數、及賃銀

人夫ノ種類及名稱	員數	日	給	一ケ年平均當	摘	要
晝 釜 焚	一	三	〇、四二二	五四、四九六		
夜 釜 焚	一	一	〇、四〇〇	五二、四〇〇		
釜 押	一	一	〇、二〇〇	二二、八〇〇		
計	三	三	一、〇一二	一二九、六九六	一ケ年總賃銀	

十二 一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量并ニ其收鹽量

一晝夜ニ於ケル釜數	一晝夜ニ於ケル鹹水容量	一晝夜ニ於ケル收鹽容量	全重量	摘	要
ケル釜數	ケル鹹水容量	ケル收鹽容量	全重量	摘	要

一〇	五〇、〇〇	一四、二二〇	二、四〇〇	各等級別ニ付テハ調査ナシタルコトナシ
----	-------	--------	-------	--------------------

十三 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル製鹽總量 一戸前ニ對スル一ヶ年平均收鹽量左ノ如シ

但シ等級ニ付未タ調査ナシタルコトナシ然レトモ多寡ノ差ヲ認メス

容	量	一九二四、一六〇
重	量	三九、〇六五〇、〇〇

十四 居出シ場ノ構造、大小、廣狹 當管内一般居出シ場ト稱スルモノハ一種ノ鹽床ニシテ其大小廣狹ハ一定スルモノニ

アラス普通長サ二間乃至二間半幅一間ニシテ深サ一尺内外ノ勾配ヲ有シ其中央ニ苦汁ノ排出路(溝)ヲ掘リ苦汁受ニ至ラシム而シテ其構造ハ下層ニガルト稱シ石炭骸ヲ二寸餘敷キ其上ニ普通鹽田面ニ撒布スルさられヲ三寸餘敷キ其上ヲ充分踏ミ固メ苦汁ノ排出路ノ兩側ニハ松板ヲ以テ箱様トシ多少勾配ヲ附シ其ノ一端ヲ苦汁桶ニ聯接セシム而シテ其床ノ一側ハ釜屋ノ壁ニ密着シ其上ヲ振張リトナシ他ノ一側ニ床ト同一ノ間數ノモノニシテ厚サ五分幅一尺ノ松板ヲ以テ土砂ノ混入スルヲ防キ此裝置ノ内ニ鹽ヲ居出シ堆積スルモノナリ

十五 煎熬ニ關スル操作及其方法 鹹水煎熬ノ操作ハ先ツ鹹水坪ヨリ田堀ニ通スル暗渠ニヨリ鹹水ヲ釜屋内ノ田堀ニ流送

セラレ之ヲ釣瓶ニヨリ温メ釜ニ注入シ製鹽餘熱ニヨリテ水分ヲ蒸發セシメ然ル後之ヲ結晶釜ニ移シ沸騰セシメテ其水分ヲ蒸發結晶セシム其後ニ田堀ヨリ鹹水ヲ注入シ先ニ注入シタルモノ結晶スレハ此ニ再ヒ鹹水ヲ注入スルコト毎回トモ全シ而シテ結晶釜ニアル鹹水ノ全ク水分ノ蒸發セサルニ先チ柄振ヲ以テ結晶シタル鹽ヲ寄セ集メ之ヲ鹽取籠ニ搔出シ釜ノ兩側ニ裝置シタル居出シ場ニ移シ苦汁ヲ摘出セシメ一晝夜ノ煎熬終ル迄其場ニ放置スルモノニシテ當管内ハ殆レト眞鹽ノミヲ製シ居レリ只生島ノミ差鹽ヲ製シ居ルヲ以テ其割合ハ製鹽用途ノ項目ノ條下ニ於テ詳述セントス

十六 從來使用シタル釜及ヒ竈ノ變遷并ニ使用燃料ノ變遷 從來使用シタル石釜ハ厚サ一寸以内ノ圓形ノ天然石(之レ香

川郡弦打村郷東川ニテ採收シタルモノノ如シ)ヲ以テ製作セラレシカ明治十二年ノ頃ヨリ花崗石ノ方形ナル切石ヲ以テ製作セラル、事トナリ明治三十四年ヨリ當管内ニ於テ鐵釜ヲ使用スルニ至リシカコハ管内ヲ通シテ二三ニ過キス而シテ從來使用燃料ハ松葉シだ草木材ノ燃料ノミヲ使用シタリシカ明治十年頃ヨリ石炭ヲ使用スルニ至リタルモノ、如シ

十七 煎熬ニ關スル其他ノ事項 該當記事ナシ

十八 一ケ年ノ平均煎熬日數 一ケ年ノ平均煎熬日數ハ百三十一日ナリ

十九 一ケ年間ノ平均收鹽量 一ケ年間ノ平均收鹽量ハ大約左ノ如シ

容量 一九二四、一六〇<sup>石</sup>  
重量 三〇、〇六五<sup>斤</sup>

二十 一ケ年間ノ採鹹及ヒ煎熬總費用 一戸前ニ付調査スルニ左ノ如シ

田別	金額
上田	二、三七五、三五 <sup>円</sup>
中田	其他調査セス
下田	全

二十一 從來半年ニ於ケル鹽田一戸前又ハ一定段別ノ收支計算表

收益金	三、六七四、五五 <sup>円</sup>
鹹採用器具費	四七、五二五
採鹹人夫總費	五九七、九〇〇
煎熬用器具費	一三六、二〇〇
煎熬人夫總費	一二九、六九四

(九) 阪出鹽務局高松出張所ノ部 第三章 製鹽方法

燃料費 一、五二二、八七五

鹽田修繕費 七三五、六六九

包裝費其他 三四〇、八〇〇

以上諸費計 三、五一〇、六六二

差引純益金 一六三、八八七

二十二 其他採鹹煎熬ノ方法鹽田釜竈其他ニ關シテ進歩シタル點改良ヲ要スヘキ點及改良案 該當記事ナシ

### 第四章 製鹽及副産物ノ種類用途

一 眞鹽又ハ差鹽ノ區別及各別數量(鹽田一戸前又ハ一定反別) 眞鹽ハ差鹽ノ如ク苦汁ヲ混煮スルコトナク全部ノ結晶ヲ

認ムルニ至リ之ヲ寄セ掬上ケ釜ノ兩側ニ設ケル鹽床ニ於テ苦汁ヲ滴下セシメ之ヲ普通(從來即チ專賣實施前)一晝夜以上放

置スルニアラサレハ俵裝販賣ナサ、リシモノ、如シ

差鹽トハ一定量ノ鹹水ヲ煎熬結晶セシメ之ヲ鹽床ニ放置シ之ヨリ滴下シタル苦汁ヲ注入即チ鹹水ニ混和煎熬スルモノニシ

テ其注入量ハ本差或ハ半差ト稱シ多少其量ヲ異ニスルモノナルカ本管内生島鹽田ハ普通四石釜ニ對シ三升約ニ六杯ヲ注加

スト云フ其目的ハ眞鹽ト同量ノ鹹水ヲ煎熬シテ苦汁ヲ注加スルタメニ割ノ増量ヲ得ル故ナリト雖モ其品質ニ至ツテハ甚タ

粗惡ナリ

眞鹽一ケ年ノ收鹽量

一九二四、一六〇

差鹽一ケ年ノ收鹽量

一七七四、五〇〇

但シ管内生島鹽田ニテ調査シタルモノ

二 鹽ノ理化學的性質

分拆成績表左ノ如シ

種類、 眞鹽、 結晶、 中、 色澤、 稍帶灰白色

水分、一〇、一五六 不容解分 〇、〇一五 硫酸石灰 〇、三四五

硫酸苦土、〇、六六八 鹽化苦土 一、五六七 鹽化加里 二、〇八九

鹽化曹達 八三、七〇七 令計 九八、五四 夾雜物 八四、六六九 濕定 八一、二八七

三 鹽ノ主要用途 本管内製産鹽ハ食料品トシテノ需用最多ク之ニ次キテ醬油釀造トシテノ需用モ亦多シ肥料、撰種、石

鹼製造、獸皮保存用ノ爲メ需要モ亦往々アリ

四 鹽(各等級)ノ容量ニ對スル重量

等級別	容量	全重量	風	袋	正味重量	摘	要
二 等	一〇、〇 <sup>平</sup>	二一、六六七 <sup>理</sup>		三、五〇〇	一八、一六七	全	本試験ハ四回之ヲ施行シ其平均ヲ取りタルモノナリ
三 等	一〇、〇	二一、六六七		三、五〇〇	一八、一六七	全	
四 等	一〇、〇	二〇、七五〇		三、五〇〇	一七、二五〇	全	
五 等	一〇、〇	二三、〇八三		三、五〇〇	一九、五八三	全	

五 苦汁ノ用途 從來苦汁ハ差鹽ニ使用シ其他ハ昆布ニ撒布シ又ハ豆腐製造用ニ供シタルノミナリトス

六 苦汁利用ノ方法 該當記事ナシ

七 苦汁ノ生産量 苦汁ノ一ヶ年ニ於ケル生産量ハ當業者モ充分ニ之ヲ知ル能ハサルモ古老ノ言ニ依レハ(濱ノ大小ニ依リ差アルモノ、如シ)平均三百石内外トス

(九) 阪出鹽務局高松出張所ノ部 第四章 製鹽及副産物ノ種類用造

八 苦汁ノ貯藏装置及貯藏方法 苦汁ノ貯藏装置ハ別項記載ノ鹹水坪ト大同小異ニシテ其方法ハ漸次産出セシ苦汁ヲ此坪

内ニ貯藏シ一ケ年間放置シ冬季ノ頃硫酸苦土及硫酸曹達ヨリナル大ナル結晶がりくろノ周壁及低面ニ固着スルヲ待チ翌年ノ三月頃其結晶ヲ採收シ肥料用トシテ販賣シ其液汁ハ皆汲ミ捨ツルモノニシテ他ニ適當方法ヲ認メス

九 苦汁一石ノ賣買價格 當管内ハ一般一石當リノ價格ヲ定メテ賣買シタルコトナク舟一艘ニ付定メタルモノニシテ其賣買價格ハ舟一艘ニ付五十錢内外ナリトス尤モ時季ニ依リテ多少ノ差アルモノ、如シ

十 苦汁ノ運搬方法及其販路 苦汁ヲ運搬スルニハ上荷船ノ中ニ桶若クハ其中ノ一種ノ槽ヲ作り之ニ苦汁ヲ入レ運搬スルモノナリ而シテ其販路ハ從來阪出地方及大阪地方ニ販賣セリト云フ

十一 苦汁ヨリ生スル副産物製造装置及ヒ製造方法 該當記事ナシ

十二 副産物ノ種類名稱及用途 當管内ニ於テハ一般苦汁中ヨリノ副産物ヲ製造シタル事績ナシ然レトモ苦汁坪中ニ於テ自然ニ結晶シタルがりくろナルモノハ肥料用トシテノ用途アルノミ價格ハ普通六貫俵壹俵ニ付拾六七錢ナリ

十三 副産物ノ價格及販路 がりくろ一俵ニ付(六貫俵)普通十六七錢ニシテ其販路地ハ大阪及備前地方ニ販賣セリト云フ

十四 鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽産出額及其使用方法 全部通シテ千五十斤内外トス價格ハ百斤ニ付參拾五錢内外ナリ

### 第五章 鹽ノ包裝及秤量

一 從來ニ於ケル一包裝鹽ノ數量

種類	容量	重量
眞鹽	石 四五〇	貫 一一、五〇〇
差鹽	四七五	貫 一三、〇〇〇

二 包裝ノ形狀種類 從來ハ吠ヲ使用シタルコトナク一般麥稈俵又ハ稻藁ノミヲ使用シタルモノニシテ其形狀ハ別紙圖面ノ如シ

三 包裝ノ編製方法及原料 其方法ハ圖解ノ如シ

四 各種包裝ノ價格

麥稈製俵

一 俵 二錢三四厘

稻藁製俵

全 二 錢

五 包裝ハ一重ナルカ又ハ二重ナルカ又ハ其形狀大小等又販賣先ニヨリ差異ノ有無 從來包裝ハ一重ト二重トノ二種ニシ

テ一重ナルモノハ地方販賣ニシテ二重ナルモノハ北陸地方ニ仕向ノ際二重包トシテ運送スルモノニシテ且ツ鹽ノ種類ニヨリ眞鹽ハ一般麥稈俵々込ミ差鹽ハ稻藁製俵ニ込ミニシタルモノナリ

六 包裝ニ附記スル商標其他記號ノ種類形狀大小 該當記事ナシ

七 秤量器ノ種類形狀大小及材料 從來ノ秤量器即チ枱ハ一斗及五舂桶ノミヲ使用シタルモノニシテ其材料ハ杉ノ割木ナ

リ其圖面別紙ノ如シ

## 第六章 貯藏方法

一 倉庫ノ構造大小及壁床ノ構造 倉庫ハ鹽ヲ貯藏スル所ナルヲ以テ運搬上至使ノ場所ニ建設スルノ必要アルモノニシテ概ネ釜屋ニ接近シ船付ノ便利好キ所ヲ撰ミ之レカ建設セラレ鹽ノ出入及船積等ニ容易ナラシムルヲ目的トス而シテ其大小ハ同一ナルモノニ非サルヲ以テ一二ノモノニ付調査シタル所ニヨレハ普通長五間九分巾二間九分梁ヲ用ヒ拾七坪一合一勾ニシテ長方形ノ瓦葺平屋造ニシテ天井ヲ設ケス周圍壁ノ構造ハ最初竹ヲ編ミ其上ニ内外共粗壁ヲ行ヒ風雨等ノ内部ニ入ルヲ豫防シ其内部ニハ腰板ヲ張り其上ニ俵裝シタル鹽ヲ積ミ並ヘ貯藏スルモノニシテ撒鹽トシテ貯藏スル等ノコトナキヲ以



テ臨床ノ設置ナシ其他保存及改良ヲ目的トスル等ノ設備ヲ認メス

二 貯鹽方法及ヒ貯鹽期間ニ於ケル俵ノ損傷ノ程度及狀態 貯鹽方法ハ一項ニ畧述セシヲ以テ省クコトトス而シテ管内

ハ一般貯鹽スルト雖從來四日間貯藏スルノミニシテ直ニ之ヲ販賣スルヲ以テ損傷等ヲ生スルコトナシ

三 俵裝ノ大小ニ依ル積載ノ高サ若クハ俵數及積揚方法 從來四斗五舛俵ノミニシテ其積上ケ高サ即チ俵數ハ普通五俵ニ

シテ其方法ハ左ヨリ五俵積上ケ順次五俵ツ、積上クルモノナリ

四 一ケ年間ニ於ケル眞鹽差鹽ノ各貯藏步減及各滴出苦汁量 眞鹽ノ貯藏步減ハ約二割三分ニシテ梅雨ノ候ニ在テハ大凡

一割位ノ欠減ヲ生シ其他ノ時季ニ在テハ別段異ナルコトナキカ如シ

差鹽ノ貯藏步減ハ約一割ニシテ梅雨ノ候ニ於テ五步位ノ減少ヲ見其他ノ時季ニ在テハ異ナルコトナキカ如シ

五 苦汁ノ採收方法及貯藏裝置 煎熬ノ部第十四項及副産物ノ項參照

六 古積鹽ノ製造方法、製造期間ニ於ケル鹽步減ノ割合 該當記事ナシ

七 古積鹽製造用家屋ノ大小構造及床四壁ノ構造 該當記事ナシ

## 第七章 鹽ノ販賣

一 從來ニ於ケル鹽販賣ノ方法 仲買人ノ周旋ニヨリ賣渡スヲ常トス現品ノ授受ハ眞鹽ニ在テハ四斗五舛差鹽ニ在テハ十

三貫匁ヲ本俵ト稱ヘ何レモ製造者並ニ仲買人立會ノ上一俵又ハ二俵ヲ任意ニ摘出セシノ鹽ノ量ヲ確メ不足ノ場合ニハ其不

足數ヲ全俵數ニ乘シ計算ヲ爲スモ萬一右ノ量ニ超過スルコトアルモ夫ハ買受人ノ利得トナルノミ代金仕拂ノ時期方法場所

等ハ第十組合第三號中高松鹽業同盟商會規約中ニ明ナレハ省ク

二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法船員ノ給料船頭ト鹽商トノ關係 右項目ニ付テハ未タ調査ヲ

遂ケス

四 鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其方法契約并ニ償却ノ方法 鹽ノ賣渡ハ主トシテ鹽ノ數量ヲ定メ賣買ノ契約

ヲ爲シタル後初メテ製造ニ着手スルモノニシテ製造ヲ終ヘタル後契約ヲ爲スモノ稀ナリ而シテ豫約ノ場合ニハ百俵(一俵眞鹽四斗)

五俵全差鹽ニ付金拾圓ノ手付金ヲ入ル、ヲ普通トスレトモ 鹽業者ノ薄資ナルモノニ對シテハ本人ノ希望ニ依リ金貳拾圓内

外ノ手付金ヲ入レ幾分製造ノ資金ヲ補フコトアルノ外特ニ資金トシテ融通スルカ如キコトナシ其償却ハ鹽代金支拂ノ際相

殺スルモノトス

五 從來ニ於ケル鹽ノ濱相場小賣價格

年 別	卸(一石當)	小賣(一俵當)
三十五年	一、四一三	〇、〇一六
三十六年	一、七一八	〇、〇一九
三十七年	一、三九七	〇、〇一五

六 鹽價ノ定メ方 仲買人ノ媒介ニヨル

七 販賣ノ季節 販賣ノ最好季節ハ夏季七八九月ナリトス是レ醬油釀造ノ夏仕込ヲナス爲ナリ

秋季即チ十一月ハ不良ニシテ十二月頃ヨリ一二月頃亦好季節トスコハ漬物ヲナスニ使用スルモノ、如シ

八 鹽ノ俵抜キ検査ノ方法 抽籤ニヨル

九 鹽ノ受渡ニ際シ重量容量ノ減少ニ對スル處置 右項目ニ付テハ未タ調査ヲ遂ケス

十 鹹水賣買ノ有無及其方法價格ノ定メ方 該當記事ナシ

十一 製鹽ノ原料タル鹹水ニ對スル見越買ノ有無及其ノ方法 該當記事ナシ

### 第八章 鹽運搬ノ方法及運搬費

(九) 販出鹽務局高松出張所ノ部 第八章 運搬ノ方法及運搬費

一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法及其各種積載數量 從來鹽船ト稱シ一般木造日本形ノ船ニヨリテ運搬セラレタルモノニシテ其積載量ハ普通四斗五升俵七百乃至千俵内外ヲ積載セリトイフ

二 各運搬方法ニ依ル各運搬先迄ノ鹽一定量又一定容量ノ運搬賃及出荷地ニ於ケル手数料諸掛費保險料着荷地ニ於ケル諸掛費等

仕向地	重	量	運搬方法	運賃	手数	數	諸掛費	保險料	着荷地ニ於ケル諸掛費
大阪	七〇斤	帆	船	〇四〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇二	〇三五
堺	七〇	全	大阪迄帆船 大阪ヨリ滾車	〇四〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇二	〇三五
京都	七〇	全	全	〇四〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇二	〇四五
大津	七〇	全	全	〇四〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇三	〇四五
彦根	七〇	全	全	〇四〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇三	〇四五
長濱	七〇	全	全	〇四〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇三	〇四五
八幡	七〇	全	全	〇四〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇三	〇四五
名古屋	七〇	全	全	〇四〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇三	〇四五
和歌山	七〇	帆	船	〇七〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇三	〇三五
東京	七〇	全	全	〇五〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇五	〇三五
東田	七〇	全	全	〇五〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇六	〇三五
瀬田	七〇	全	全	〇五〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇六	〇三五
直江津	七〇	全	全	〇五〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇七	〇四〇
函館	七〇	帆	船	〇八〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇四	〇三〇
福岡	七〇	帆	船	〇八〇	〇〇八	〇〇八	〇一一	〇〇四	〇三〇

鹽ノ運賃ト他ノ運賃トヲ比較スルニ鹽ハ約三割位低クシ

第九章 小作人ト地主トノ關係

本項契約ハ左記ノ如シ日常需用品タル石炭ハ地主ヨリ供給ヲ仰キ一ヶ月百分ノ一乃至二内外ノ利息ヲ支拂フコト、セリ

### 鹽田卸付契約書

#### 一 鹽田ノ表示

但シ竈家一ヶ所鹽納屋一ヶ所飯壺三ヶ所釜道具悉皆并ニ金釜ニ本添

此一ヶ年卸付鹽何百俵

外ニ喰鹽何俵ノ定メ

右受取方一晝夜焚ニ付俵五俵五步宛其時ノ平均相場ヲ以テ一ヶ年ノ却付鹽ニ滿ル迄期限中毎年請取可申尙受取期限ハ毎年舊四月末日限三步舊八月末日四步舊十二月末日限殘三步都合三回ニ受取可申契約ナリ

右之通拙者所有鹽田明治三十五年舊正月一日ヨリ至三十九年舊十二月末日迄滿五ヶ年間貴殿へ卸付其敷金トシテ金五拾圓ナリ無利息ニテ正ニ相預リ候所實正也就テハ期限中不可抗力其他ノ如何ナル年柄ノ爲不作スルアルモ所定ノ卸付鹽代ハ不足ナク受取リ減額等決シテセサル事而シテ非常又ハ平素ト雖竈屋鹽納屋鹽壺等ノ建換葺換ハ手元ヨリ六步通出金可致ニ付四步通ハ貫殿負擔ニシテ其他ノ修繕ノ如キハ悉皆貴殿ニ於テ負擔スヘキ契約ナリ暴風雨又ハ急變ノ際ハ堤防及建物其他防禦ニ注意シ緩急ノ所置可被下若シ等閑ニ相附シ損害相生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スヘク尙又期限滿了ノ節ハ諸道具等相當修繕ヲ加ヘ返却可被下本契約ニ違背スルトキハ何時タリトモ鹽田引上可申ハ勿論賠償可被下候爲後日鹽田卸付證因而加判如件

明治三十四年十二月二十五日

貸主

借主 殿

## 第十章 組合

- 一 鹽製造組合ノ組織規定及沿革 本項ニ付未タ調査シタルモノナシ
- 二 鹽販賣組合ノ組織規定及沿革 該當記事ナシ
- 三 燃料其他需用品購買組合ノ組織規定及沿革 鹽專賣法實施以前ニ在テハ香川郡(下笠居村ヲ除ク)及高松市ニ於ケル製鹽業者ハ其製造ニ係ル鹽ノ共同販賣ヲナスト同時ニ燃料ノ購入ヲナシタリシカ法實施ト同時鹽ノ販賣ニ在テハ自然消滅シタレトモ石炭ノ購入ニ在テハ今尙繼續シツ、アリ其規約左ノ如シ

### 高松鹽業同盟會規約

#### 第一章 總 則

- 第一條 本會ハ鹽業者共同一致シ此業ノ改良擴張ヲ謀ルノ目的ヲ以テ左ノ二項ヲ遂行スルモノトス
  - 一 一定ノ方法ヲ以テ同盟者ノ製鹽ヲ販賣スルコト
  - 二 同盟者ノ使用ニ係ル石炭ヲ購入スルコト
- 第二條 本會ハ高松鹽業同盟者會ト稱ス
- 第三條 本會設立ノ期限ハ滿三ヶ年トス
- 第四條 本會ノ位置ハ高松市大字井口町三十四番戶トス

#### 第二章 同盟者

- 第五條 本會維持ノ爲各自金拾圓ヲ積置スルモノトス  
但シ概金額ハ三ヶ月ニ之ヲ分納スルコトヲ得
- 第六條 簽立ノ始終ハ遲滯ナク本會ニ通報スルモノトス

第七條 製鹽ヲ販賣セント欲スルモノハ其俵數及豫定價格ノ届出ヲ要ス

第八條 製鹽ハ本會ニ於テ之ヲ販賣スルモノトス

第九條 前條ニ違背シ他ニ之ヲ販賣シタルトキハ俵數ノ多寡ヲ論セス一俵ニ付金五錢ノ違約金ヲ徴收スルモノトス

但シ違約者ニ於テ該價格ヲ完納セサルトキハ總會ノ決議ヲ以テ維持金積立金ヲ改收シ除名スルコトアルヘシ

### 第三章 製鹽販賣

第十條 鹽販賣ノ當日左ノ如シ

一 一六

但臨時販賣ノ申込アル時ハ此限ニアラス

第十一條 販賣スヘキ製鹽ハ豫テ本會ニ於テ賣主ノ氏名俵數價格ヲ詳記シタル帳簿ノ順序ニ從ヒ賣主ノ意見ヲ聞キ之ヲ販賣

スルモノトス

第十二條 小賣ハ同盟者各自ニ之ヲナスコトヲ得

第十三條 賣買ハ買主ニ於テ其價格ノ十分ノ二ヲ手附金トシテ即時ニ納付セシメ本會保證ノ名義ヲ以テ賣主ト連署シタル賣

渡證書ヲ交附シ以テ本約定ノ完結シタルモノトス

但本會ニ納付シタル手附金ハ速ニ賣主ニ交付ス

第十四條 製鹽先賣ノ場合ニ於ケル手付金ハ其價格三分ノ一トス

第十五條 本會ト直接賣買シタル時ハ本會附屬ノ仲買人ヲシテ其賣渡ヲナサシムルモノトス

但其口錢割合左ノ如シ

第十一 差鹽及斗差鹽

第十二 眞鹽

第十六條 本會ハ代價皆濟ノ買主ニ對シ鹽出切手ヲ交附スヘキモノトス

第十七條 買主ハ鹽出切手ヲ賣主ニ示シ現品ヲ交換スヘシ

第十八條 賣主ハ現品引渡後鹽出切手ヲ本會ニ提出シ其代金ヲ受領スヘキモノトス

第十九條 賣主ハ凡テ濱限之ヲ交換スヘキモノトス

然レトモ本船ニ回漕中風波其他天災ノ爲舢船積入品ニ損害ヲ生シタルトキハ其實況ヲ調査シ相當ノ處置ヲ爲スコトアルヘシ

但シ舢船主ノ不注意ニ因リ生スル損害ハ此限ニアラス

第二十條 鹽價下落ノ場合ニ於テハ時宜ニ依リ買主ニ對シ元込金ノ請求ヲナスコトアルヘシ

第二十一條 鹽價騰貴ノ爲メ賣主ニ於テ其引渡ヲ遲滞シタル時ハ本會ハ之カ引渡ヲナサシムルモノトス

第二十二條 前二條ノ違約者ハ法律ノ判方ニ從フモノトス

但賣買主双方間ノ熟議ハ此限ニアラス

#### 第四章 石炭購入

第二十三條 石炭ハ本會役員又ハ同盟者三名以上立會評議シ之カ購入ヲナスモノトス

第二十四條 本會ニ於テ評議シタル石炭ハ船引問屋ヲシテ豫メ同盟者ニ通知セシメ其記載ノ客帳ヲ調査シ之カ荷揚ニ着手ス

ルモノトス

第二十五條 斤量ハ本會役員又ハ鹽問屋其量目ヲ決定スルモノトス

但シ同盟者ノ立會ヲ要セス

第二十六條 石炭荷揚場所ハ高松築港内トス但他所ニ轉船スル時ハ此限ニアラス

第二十七條 同盟者各自ノ買入代價及其量目ハ本會ニ於テ調査シ船引問屋ヲシテ其計算書ヲ各買主ニ交付スルモノトス

第二十八條 買主ハ計算書ニ記載ノ代價ヲ速ニ仕拂フモノトス

第五章 役員

第二十九條 本會役員ハ同盟者ニ於テ互撰スルモノトス

第三十條 本會役員ハ左ノ如シ

會長 壹名

庶務及會務ヲ總理ス

副會長 全

會長ヲ補佐シ又ハ代理ス

幹事 參名

會長ノ監督ヲ受ケ會務及庶務ヲ分掌ス

書記 若干名

會長任免ス

第三十一條 幹事ノ内一名ハ仲買人營業者ヲ以テ之ニ充テ本會附屬ノ仲買トス

第三十二條 本會役員ノ任期ハ滿一ケ年トシ毎年十二月改撰ス但再撰ヲ妨ケス

第三十三條 本會役員報酬左ノ如シ

會長 金 百 圓

副會長 金 七拾五圓

幹事 金 五拾圓

書記

但シ特ニ勤勞者ニ對シ總會ノ決議ヲ以テ慰勞トシテ金品贈與スルコトアルヘシ

第六章 會計

第三十四條 同盟者ノ納付シタル維持金ハ本會ニ於テ利殖ヲ計ルモノトス

第三十五條 同盟者ハ本會ニ於テ販賣シタル食鹽一俵ニ付金三厘ヲ納付スヘキモノトス但該金額ハ賣主ニ交付スヘキ鹽代金

(九) 阪出鹽務局高松出張所ノ部 第十章 組合



ヨリ控除スヘキモノトス

第三十六條 同盟者ニ於テ小賣シタル鹽ニ付テハ前條同一ノ金額ヲ納付スヘキモノトス

第三十七條 本會ニ於テ評價シタル石炭ノ買主ハ壹百斤ニ付金一厘ヲ納付スヘキモノトス

但該金額ハ石炭代價仕拂ノ時本會ニ納付スヘキモノトス

第三十八條 前條金額ハ本會ノ經費ニ充テ尙其殘餘ヲ以テ積立金トナシ利殖ヲ計ルモノトス

第三十九條 本會ニ納付シタル維持金其他金額ハ豫メ各自ニ交付シタル通帳ニ記載スヘキモノトス

第四十條 本會ノ收支ハ毎年六月十二月ノ二期ニ精算シ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ處分スヘキモノトス

### 第七章 會議

第四十一條 會議ハ總會通常會ノ二種トス

第四十二條 會長ヲ以テ議長トシ役員及同盟者ヲ以テ議員トス

第四十三條 會議ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第四十四條 總會ハ毎年六月十二月ノ二期之ヲ開クモノトス

但シ重要ノ事項アルトキハ臨時開會スルコトヲ得

第四十五條 通常會ハ毎月十五日之ヲ開クモノトス

第四十六條 總會ハ總員三分ノ二以上通常會ハ總員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ當日會議ヲ開ク事ヲ得ス

第四十七條 總會及通常會ニ於テ議スヘキ案件ハ豫メ本會ニ揭示スヘキモノトス

### 附 則

第四十八條 明治三十三年度ハ十二月ヲ以テ役員ヲ改撰ス

第四十九條 本則ハ明治三十三年五月一日ヨリ施行ス

明治三十三年四月二十六日

明治三十三年十月通常會ニ於テ規約中改正ヲ爲シタル個條左ノ如シ

第二十三條 石炭ハ本會ニ於テ當直評議員及同盟者立會評議シ之カ購入ヲ爲スヘキモノトス

但シ本會以外ノ地ニ於テ購入スルコトヲ得ス

若シ前項ニ違背シタルトキハ其購入者タル同盟者ヨリ積船壹艘ニ付金拾圓ノ違約金ヲ徵收ス十萬斤以下ノ小舟ニ付テハ

一人一手ニ之ヲ購入スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テハ其着帳ヲ省畧スルモ他ノ同盟者ニ對シ之ヲ分與ノ義務アルモノトス然レトモ被分與者ニシテ即時代價ノ支拂ヲナサ、ル時ハ強テ分與ヲ需ムル權利ナキモノトス

第三十條 本會役員左ノ如シ

會長 壹名 庶務及會務ヲ總理ス

評議員 參名 會長ノ監督ヲ受ケ二名ハ庶務一名ハ會務ヲ分掌ス

書記 若干名 會長任免ス

第三十一條 評議員ハ同盟者ヨリ二名當直シ毎日輪轉スヘキモノトス

同盟者

、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、

第十一章 試驗

第十二章 輸出入及試賣

第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

(九) 阪出鹽務局高松出張所ノ部 第十章 組合 第十一章 試驗 第十二章 輸出入及試賣 第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

(九) 阪出鹽務局高松出張所ノ部  
 第十四章 燒鹽  
 第十五章 再製鹽  
 第十六章 鹽田ノ地價等

第十四章 燒鹽

第十五章 再製鹽

右五章 該當記事ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

鹽田ノ地價時價小作料及鹽田ト他ノ土地トノ比較

壹町五反步當左ノ如シ

東濱村

地目	地	價	時	價	小作料
鹽田		二四七、〇五〇 <sup>円</sup>		五、四八〇、八五〇 <sup>円</sup>	七六三、〇五〇 <sup>円</sup>
畑田		四五〇、〇〇〇		二、五五〇、〇〇〇	二三四、〇〇〇
		三〇〇、〇〇〇		一、八〇〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇